

ナノ微粒超硬合金拡販

富士ダイス 金型・工具に照準

富士ダイスは、ナノ微粒超硬合金「フジロイFS06」の拡販を図る。原料の炭化タンゲストレン(WC)粒度をナノサイズに微細化し、硬さと曲げ強さを両立した。ナノ微粒組織を生かした鋭利な工具の

原料などに適しており、アモルファス合金箔の抜き金型といったアプリケーションでの普及を目指す。WC粒度を従来の最小レベルの半分程度となる0.2μm程度まで微細化し、硬度を高め

た。ロックウェル硬さは最高クラスのHRA95・0、曲げ強さは4000N/mm²を示す。仕上げ加工を要さないニアネット形状への焼結対応も可能だ。ターゲットとする用途の一つがアモルファ

スモーター。電磁鋼板と比べモーターの薄型化に貢献する合金材料だが、高強度で切断の難易度が高い。シャープエッジな金型・工具を実現するフジロイFS06の活用を促したい。ナノ微粒超硬合金シリーズはフジロイFS06以外にも3つの材料をそろえ、機械特性はそれぞれ異なる。フジロイFS06を上回る曲げ強さの材料もラインアップする。